

The 46th Business Report

第46期 報告書

2012年6月1日 >>> 2013年5月31日

特集

近距離無線技術で、快適で便利な
生活を支えます

JASDAQ
証券コード:9651

私たちは、社会の安全・安心、快適・便利な生活の実現を目指しています。

新たな体制のもと、豊かな社会づくりに貢献します。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2013年6月より、これまで10年間社長を務めました大部 仁が代表取締役会長に、副社長でありました上石 芳昭が代表取締役社長にそれぞれ就任いたしました。

当社は、創業以来、高い品質水準を要求される制御・組込分野を中心に顧客と一体となったシステム開発を進めるとともに、事業拡大に努めてまいりました。

今後は、新たな体制のもと、社会及び当社発展のため、将来を見据えた新たな注力分野の発掘などで更なる企業価値向上を目指してまいります。

株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役会長

大部 仁
(写真左)

代表取締役社長

上石 芳昭
(写真右)

今期(2013年5月期)の業績について

▶ 売上高は前期比12.6%増加 増収増益を達成

今期の業績は、交通システム、ITサービスは前期を下回ったものの、特定情報システム、産業・公共システム、組込システムは好調でした。この結果、売上高は52億30百万円で前期より12.6%増、営業利益は3億16百万円で前期より27.1%増となりました。

各セグメントの状況についてご報告します。

制御システムでは、エネルギー分野は火力発電所向け監視・制御システムの開発は、東日本大震災の復興需要が一巡し、電力業界全体として開発量が減少傾向となりました。自動車分野は車載ナビシステム開発がやや減少傾向にあるものの、自動車制御システムでは次世代自動車向け電動化システムの開発が好調でした。

交通システムでは、新幹線の運行管理システム開発は減少傾向にあるものの、北陸及び北海道新幹線延伸に関わるシステム開発作業は順調でした。また、在来線の運行管理システム開発は横ばいでしたが、その他のシステムの不具合対応により受注活動が不足したことなどで、売上高、利益ともに前期を下回りました。

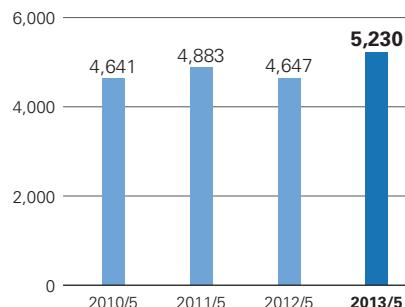
特定情報システムでは、前期より継続していた危機管理分野の大型システム開発が順調に進捗し、売上高、利益に大きく貢献しました。また、環境構築作業や新システムへの取組みが始まるなどで堅調でした。

組込システムでは、ストレージデバイスの組込システム開発は堅調でした。スマートフォンのプラットフォーム開発は横ばいでした。今期より開始した自動車向けの組込システム開発が順調に推移したほか、複数企業と新たな取引を開始しました。

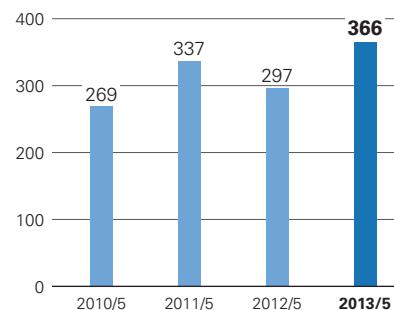
産業・公共システムでは、ICカード関連のシステム開発は、デジタル放送向けを受注するなど堅調でした。また、顧客の業務拡大に伴い、コンテンツ管理製品の開発が堅調に推移し、新たに開始したスポーツ関連システムの開発は順調に推移しました。

ITサービスでは、検証業務は顧客の商品開発の減速やオフショア化の影響により売上高、利益ともに減少しましたが、構築支援業務は復興需要などで堅調で、その他の業務は概ね横ばいでした。

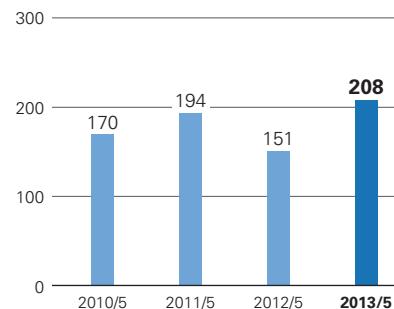
売上高 (単位：百万円)



経常利益 (単位：百万円)



当期純利益 (単位：百万円)



来期(2014年5月期)の重点取組みについて

▶ 3つの重点取組み課題を掲げ確実に実行

このところ、再生可能エネルギーなどのエネルギー問題、CO₂削減などの環境問題、新興国では経済成長に伴う電力不足などで、世界規模で安全で安心な社会インフラへの投資ニーズが高まっています。一方、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末の急速な増加、クラウド化の進展やセンサーネットワークの充実などで、どこでもいつでも快適で便利なサービスの利用が可能となる新たな社会インフラの構築ニーズも高まっています。

こうしたことから、当社では、中期経営ビジョンを「社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。」とし、2014年5月期の重点取組み課題を3つ掲げています。

1つ目は、当社が得意としている社会インフラ分野などから新たな注力分野を発掘することです。そのために、業界団体の研究活動などへの参画を継続するとともに、今後必要となる技術力の向上や開発手法の習得などを積極的に推進してまいります。

2つ目は、顧客とともにグローバル化を推進することで

す。顧客が海外で高い競争力を発揮できるように、国際標準化、共通化やパッケージ化などを積極的に提案していきます。また、中国の大連にある当社グループ会社を活用し、オフショア開発によるコスト低減にも取り組んでいきます。

3つ目は、トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス(T-SES)の推進を継続します。T-SESとは、ソフトウェアの要件定義、開発から運用・保守までをトータルにサービスすることにより顧客に最大のメリットを提供するものと当社では定義しております。単なる請負化や業務範囲の拡大ではなく、顧客が困っていることを当社が顧客に替わって行うことで、顧客が本来すべきこと、例えば商品企画などに注力することができる、という考えからです。これまで推進してきたT-SESが徐々に顧客から評価されており、より高い付加価値を提供するために、T-SESの推進を継続してまいります。

セグメント別の取組み課題についてご報告します。

制御システムのエネルギー分野では、火力発電監視制御の次世代システム開発などの提案を推進し、自動車分野では機能安全の技術力向上や、モデルベース開発手法の習得などに注力します。交通システムは、業務範囲の拡

2014年5月期連結業績予想

■ 売上高	53億円
■ 営業利益	3.4億円
■ 経常利益	3.8億円
■ 当期純利益	2.1億円

第3次中期経営 ビジョン

社会インフラ分野の安全・安心、
快適・便利に貢献する。

2014年5月期 重点取組み課題

- ▶ 新たな注力分野の発掘
- ▶ 顧客とともにグローバル化を推進
- ▶ T-SESの推進を継続

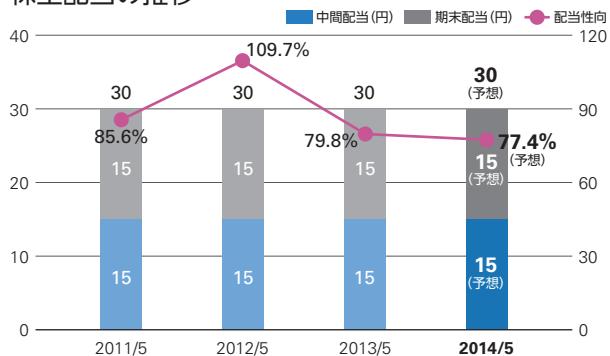
大とオフショア化を推進します。特定情報システムは、地図情報のような空間情報などを活用する分野で業務範囲の拡大を目指します。組込システムは、近距離無線技術や半導体技術を武器に新規顧客を開拓します。産業・公共システムは、今期から開始したスポーツ関連システム開発などで、顧客への付加価値の向上を目的とした請負化をより推進していきます。ITサービスは、構築業務では技術力の向上を図り、検証業務では新規顧客の開拓を継続します。また、運用業務では単なる運用サービスからITサービスマネジメント全領域にサービス範囲を拡大していきます。

株主の皆様へ

▶ 配当性向50%以上と安定的な配当を継続

私、上石は、2013年6月に社長に就任いたしました。当社を取り巻く環境が大きく変化している中、大事に育てるものと、変えていくものを峻別しながら、人も組織も成長し続ける会社でありたいと考えております。

株主配当の推移



当社では、株主に対する利益還元を経営の重要指針として位置付けており、安定的な配当の継続と配当性向50%以上の配当を基本方針としております。今期につきましても、1株当たり30円(中間配当15円、期末配当15円)の配当を実施いたしました。

今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



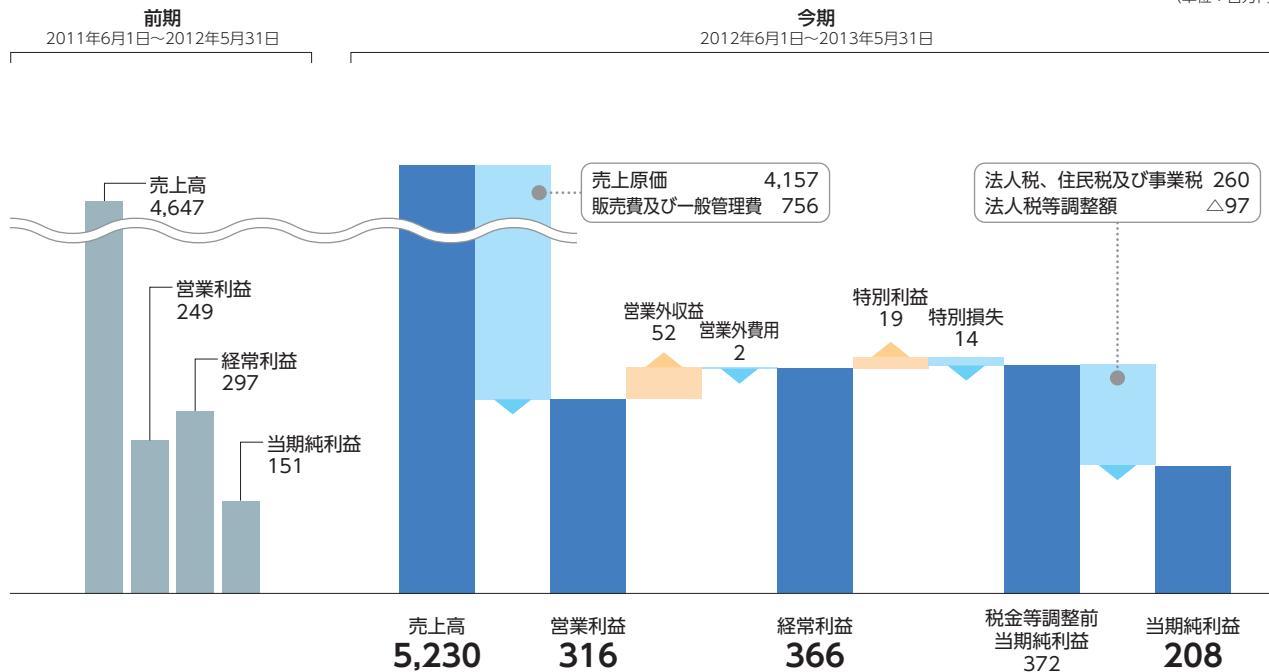
新社長のプロフィール

かみいし よしあき
上石 芳昭

1955年3月生まれ。1978年に当社入社。鉄鋼プラントや電力システムなど制御システムの開発を担当後、自動車のエンジン制御や発電所監視制御システムの開発など現在の制御システム事業部の柱となる分野を新規開拓。2004年取締役、2007年代表取締役副社長、2013年6月代表取締役社長に就任。

連結損益計算書の概要

(単位：百万円)



POINT
1

売上高

交通システム、ITサービスは前期を下回ったものの、特定情報システム、産業・公共システム、組込システムが好調であり、5億83百万円増加しました。

POINT
2

営業利益

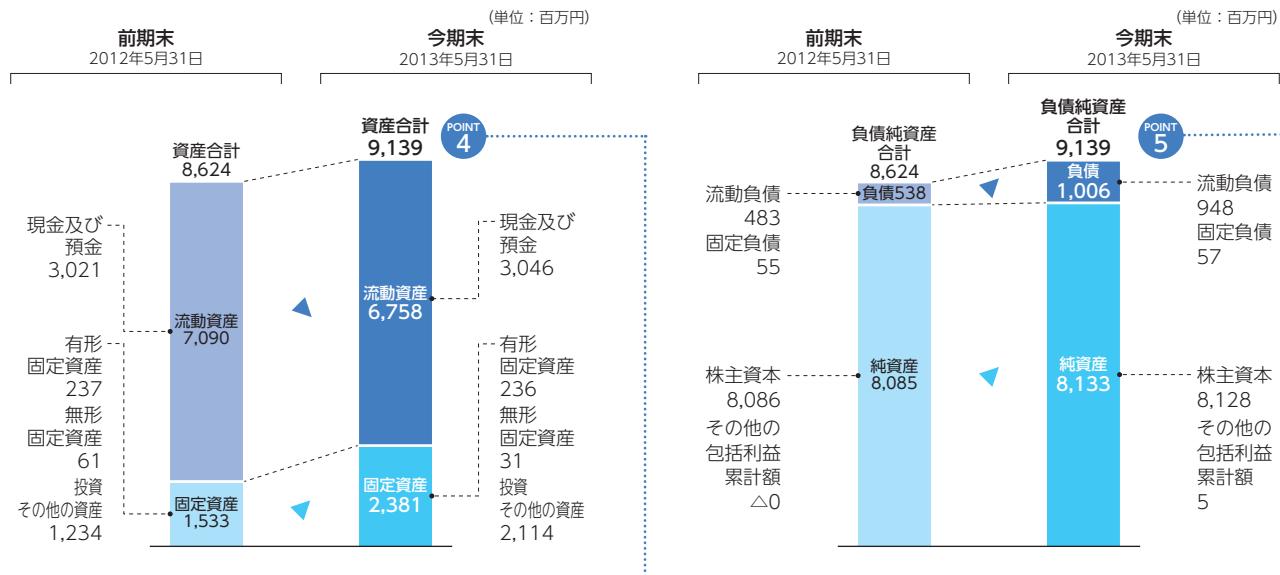
特定情報システムの大型システム開発の完遂、組込システムの新規顧客獲得などの貢献により、前期より67百万円増加しました。

POINT
3

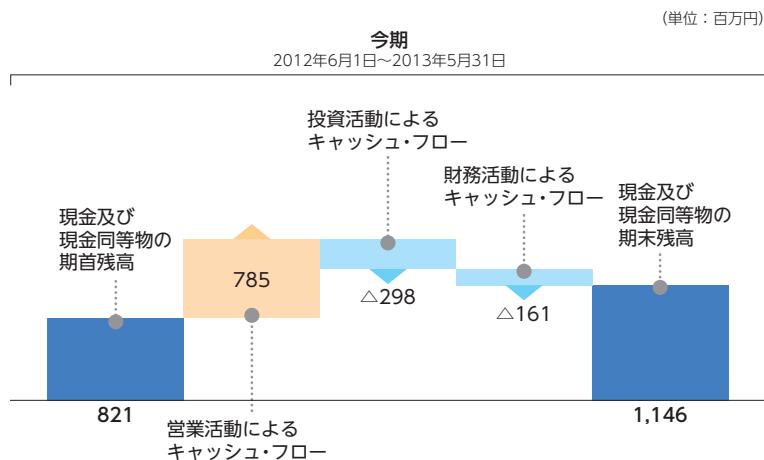
当期純利益

新入社員を対象に実施した組込システム開発研修の助成金が、前期より9百万円増加し、投資有価証券の評価損が13百万円発生した結果、当期純利益は前期より56百万円増加しました。

連結貸借対照表の概要



連結キャッシュ・フロー計算書の概要



POINT 4

資産合計

投資有価証券の増加などにより、前期末に比べ増加しました。

POINT 5

負債純資産合計

賞与引当金、未払法人税等の増加により、前期末に比べ増加しました。

POINT 6

キャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は、税金等調整前当期純利益及び賞与引当金によるものです。

投資活動の結果使用した資金は、投資有価証券の取得による支出等によるものです。財務活動の結果使用した資金は、配当金の支払いによるものです。

特集 近距離無線技術で、快適で便利な生活を支えます

Q 組込システムの開発を担当されているとのことですが、どのようなお仕事をされているのでしょうか。

組込システムとは、例えば携帯電話やスマートフォン自体に予め組み込まれるソフトウェアのことで、入力された電話番号に電話をかける、押されたキーを文字に変換してメールを送信する、電波の強さを画面に表示するなどの機能を実現するものです。私は、携帯電話やスマートフォンのデータ通信、近距離無線技術をベースとしたWi-FiやBluetoothのソフトウェア開発を担当してきました。昨年からは、これまで取組んできた近距離無線技術をキーワードとした新規顧客への営業活動に力を入れており、数社と新たな取引を開始することができました。また、今期からは、新たなビジネスユニットとして、自動車情報系の組込システムを開発する部署を任されました。



組込システム事業部
山根 保

Q 近距離無線技術とは、どのような技術なのか教えてください。

近距離無線機能が搭載されているパソコン用プリンターがあれば、スマートフォンからもボタン1つで印刷が可能です。パソコンを操作するためのマウスも無線の製品を多く見かけるようになりました。こうした機能を持つ機器が、混線しないように接続の管理を行ったり、データの送受信を行ったりするのが近距離無線技術です。近距離無線技術の難しいところは、製品に搭載されているCPUやOSドライバーによって癖があり、求められる機能を実現するためにはハードウェアにより近い部分までの知識が必要となることや、Wi-FiやBluetoothの機能が向上するとこれまで実現できていた機能が動作しなくなる場合があるところです。

現在、私たちは、自動車に搭載するカーナビの開発に携わっていますが、その中でも近距離無線技術を用いてスマートフォンと連携する機能の開発を担当しています。一例ですが、カーナビのマイクを使ってスマートフォンでハンズフリー通話できる機能や、スマートフォンに入っている音楽をカーナビに転送しカーステレオで再生したり、スマートフォンでカーステレオの音質調整を行う機能などです。こうした機能が搭載された自動車であれば、誰でも、どの自動車でもそれぞれのスマートフォンを通じて好きな音楽を好みの音質で聴くことができる、というような快適で安全なドライブに役立つものを開発しています。

Q

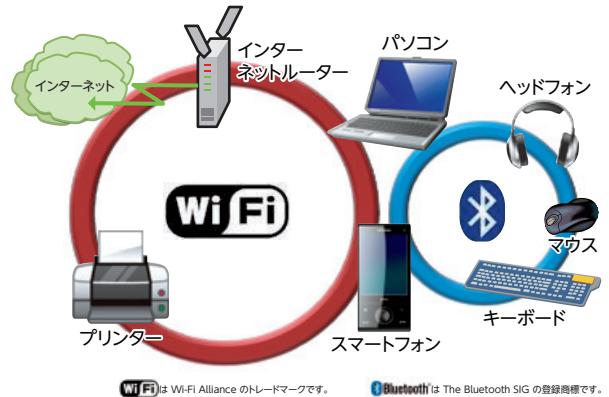
今後の近距離無線技術は、どのような分野でどのように活用されるのでしょうか。

私が担当している自動車情報系の分野では、自動車そのものの情報を近距離無線技術で収集し、スマートフォンなどでインターネットを通して送受信していくようになると思います。例えば、ドライブの途中で自動車が動かなくなった時など、故障箇所や部品の消耗状況などを感知するセンサーのデータを近隣の整備工場に送信して、修理部品などが揃った整備工場に修理が依頼できたりしたらとても便利になります。

自動車情報系に留まらずあらゆる組込システム製品や電子部品は、急速に高機能化、多機能化が進んでいます。政府が推進するスマートシティなどのスマート構想と相まって、電子部品やセンサーなどの機器同士が近距離無線技術によりコンピューターネットワークを通じてデータをやり取りし、高度な処理や制御を行うようになっていくと思われます。

最近テレビCMでよく目にするスマートハウスを例にすると分かり易いと思います。各部屋に取り付けた人感センサーや温度センサーの情報を収集し人が居ない部屋の電気を消す、あるいは人の居るところに向けて冷暖房の風を送るなど、省エネで快適な暮らしに役立ちます。

Wi-FiとBluetooth って何が違うの？



【Wi-Fi(ワイファイ)とは】

- ・複数の機器を無線で繋ぐ(LAN)
- ・データ通信に向く
(インターネット接続、画像、動画など)
- ・電波の範囲は数十m程度
- ・Bluetoothと比較するとやや高価

【Bluetooth(ブルートゥース)とは】

- ・2つ機器間を無線で繋ぐ
- ・簡易な情報のやり取りに向く
(キーボード、マウス、簡単なオーディオ信号)
- ・電波の範囲は数m程度
- ・機器は小さく、安価

Q

私たちの生活が、快適で便利になるために不可欠な技術が近距離無線技術なんですね。

私たちの生活を快適で便利にするためには、様々なセンサーなどからの情報を収集し、それぞれの機器を制御することが必要です。一つの機器だけを制御するならば有線で繋がれば十分ですが、複数の機器とデータのやり取りをするには、近距離無線が最適です。今後も、近距離無線技術は、通信速度、消費電力などいろんな面での進化が継続するものと思います。私たちは、快適で便利な生活に貢献するという自負心を持って、新たな技術にも積極的に取り組んでいきます。

当社は創業以来、高度な品質と信頼性を要求される制御/組込システム開発を主力事業とし、「品質第一」に実績を積んでまいりました。

当社が長年にわたり培ったソフトウェアエンジニアリング技術を生かし、システム開発に留まらず、構築サービスや検証サービスにも事業分野を広げ、お客様に最適なベネフィットが提供できる「トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス」を目指しています。

制御システム事業



 安全・安心のサービスを社会に提供するエネルギー関連と自動車関連のシステム開発事業を展開しています。



組込システム事業



 携帯電話や情報家電、デジタル複合機を中心とする製品のソフトウェア開発を行っています。



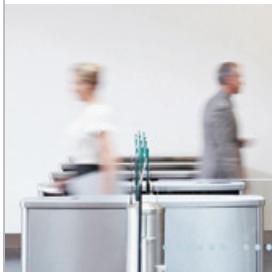
交通システム事業



 新幹線をはじめとする全国の鉄道運行管理システムの開発を行っています。



産業・公共システム事業



 様々な産業分野で活動する企業の個別システムや、社会インフラを支える公共システムの開発を行っています。



特定情報システム事業



 衛星画像の画像処理技術などを用い、社会の安全・安心を支えるシステムの開発を行っています。



ITサービス事業



 システムの構築・検証・運用/保守など、顧客の「モノづくり」に関わるサービス全般を包括的にサポートします。



会社概要 (2013年5月31日現在)

会社名	日本プロセス株式会社 (JAPAN PROCESS DEVELOPMENT CO.,LTD.) 略称 JPD
本店	〒105-6126 東京都港区浜松町二丁目4番1号 世界貿易センタービル26F TEL 03-5408-3351 FAX 03-5408-3289 URL http://www.jpdc.co.jp/
設立	昭和42年(1967年)6月
事業内容	システム・インテグレーション及びソフトウェア開発
資本金	14億8,740万円
従業員(単体)	553名
取引銀行	三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

株式の状況 (2013年5月31日現在)

発行可能株式総数	22,980,000株
発行済株式の総数	5,545,092株(自己株式200,092株を除く)
株主数	837名
大株主	

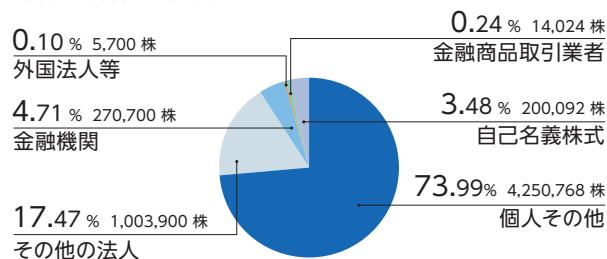
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
SBI Value Up Fund 1号投資事業有限責任組合 (無限責任組合員SBIキャピタル株式会社)	933,500	16.83
大部 満里子	624,470	11.26
大部 仁	549,823	9.92
大部 力	545,094	9.83
日本プロセス社員持株会	410,000	7.39
吉川 豁彦	377,011	6.80
小泉 修	365,011	6.58
萩野 正彦	211,824	3.82
第一生命保険株式会社	167,200	3.02
白川 一幸	138,000	2.49

(注) 持株比率は自己株式(200,092株)を控除して計算しております。

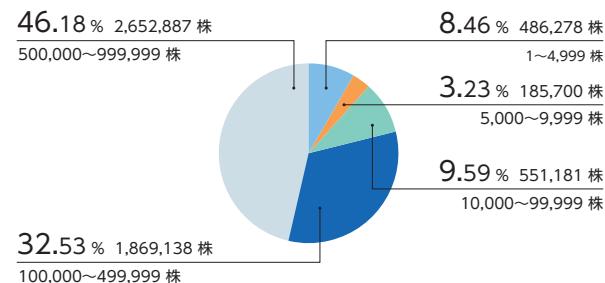
役員 (2013年8月23日現在)

代表取締役会長	大部 仁
代表取締役社長	上石 芳昭
取締役	多田 俊郎
取締役	久保 裕
取締役(社外)	諸星 信也
取締役(社外)	千葉 拓
常勤監査役	岡竹 芳彦
監査役(社外)	川上 弘
監査役(社外)	椎名 健二

所有者別株式分布状況 (2013年5月31日現在)



所有株数別株式分布状況 (2013年5月31日現在)



株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会	毎年8月開催
基準日	定時株主総会 毎年 5月31日 期末配当 毎年 5月31日 中間配当 毎年 11月30日
株主名簿管理人 及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵送物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	0120-782-031

(インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

同取次所 三井住友信託銀行株式会社 本店
及び全国各支店

公告方法 当社のホームページに掲載
<http://www.jpdc.co.jp/koukoku.html>
(ただし、電子公告によることができない事故、
その他のやむを得ない事由が生じたときは、日
本経済新聞に公告いたします。)

貸借対照表及び
損益計算書の掲載URL <http://www.jpdc.co.jp/ir/>

上場金融商品取引所 株式会社東京証券取引所 JASDAQ市場

ホームページのご案内

<http://www.jpdc.co.jp/>

トップページ



IR情報



決算短信、有価証券報告書、株
主通信、説明会資料、株主総会
資料をご覧ください。

株主向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 9651

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ [e-株主リサーチ事務局]

TEL : 03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL : info@e-kabunushi.com



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

